

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 26 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530643

研究課題名（和文）日本における臨床心理士の教育訓練と職業的発達上の課題について

研究課題名（英文）Issues pertaining to the training and professional development of clinical psychologists in Japan

研究代表者

金沢 吉展 (KANAZAWA YOSHINOBU)

明治学院大学・心理学部・教授

研究者番号：10152779

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：セラピスト論、職業的発達、教育系心理学、臨床心理士、スーパービジョン、専門職

1. 研究計画の概要

本研究は、臨床心理士の訓練と職業的成長を、コンピタンス(臨床心理士の能力)の獲得と向上、心理専門家としてのアイデンティティ形成という視点から包括的に捉えることを目的とする。特に、臨床心理士の職業的動機、発達の契機となる出来事・困難経験とそれらへの対処、個人的生活と職業的生活との相互作用や葛藤、教育訓練過程における困難や成長促進体験について明らかにし、またこれらと臨床実践への取り組み方との関係を検討する。そして、こうした発達の知見を統合し、臨床心理士養成のための大学院における教育訓練、および、大学院修了後の継続的教育訓練プログラム改善のための有効な提言を行うことをねらいとする。

2. 研究の進捗状況

(1) 発達過程について

臨床心理士の成長過程についてインタビュー調査を行い、結果を質的手法を用いて分析した。個人としてのライフイベントや他の大学院生たちとの相互支持の経験などが、主観的成長感を支える要因になっていることが示唆された。また、大学院での教育・訓練における困難体験として、臨床家としての自信が未だ十分でないと感じながら、日々の臨床活動に携わらなければならないと感じ、無力感と同時に失敗への恐怖を抱くという、“警戒モード”にあることが挙げられた。一方、大学院時代の臨床訓練における有意義な体験として、対人的距離感の近い中で、自分の言動について直ちに指摘やフィードバックを受けるといった体験が肝要であることが示唆された。

理論的検討として、エキスパート（マスター）セラピストに関する理論的研究を通して、初心者あるいは初任者レベルの臨床家が、専門家としての熟達化を進め、優れた実践家として人間的・職業的成長・発達を遂げるために必要な要因について考察を行った。

(2) 成長促進的援助について

心理職の専門職としての意識（アイデンティティ）について、臨床心理学を実践活動、研究活動、専門活動として体系化し、専門職としての意識の確立が専門活動の主要な教育目的となることを理論的に示した。そして、臨床心理学に関連する職業意識の発展過程における現場研修（インターンシップ）体験が専門的職業意識の促進に与える役割を検討するために、医療領域における臨床心理研修プログラムを作成した。

また、大学院修了後の教育訓練・研修に関して、有用な訓練・研修プログラム作成の一助とするため、臨床心理専門職を対象としたニーズ調査を作成した。

(3) 教育訓練の実際について

臨床心理士養成のための第1種指定大学院ならびに専門職大学院の附属臨床心理実習施設を対象として、大学院生（実習生）のスーパービジョンに関する調査用紙を配布し、回答を分析した。

また、スーパービジョンについて質的に検討を行うため、スーパービジョンに関するインタビュー調査を行った。加えて、2回のスーパービジョン・セッションを録画し、終了後に対人プロセス想起法を用いて、スーパービジョンのプロセスを検討した。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。
(理由)

異なる発達段階にある臨床心理士を対象としたインタビュー調査、ならびに、専門家としての発達の初期段階にある臨床家を対象とした縦断的調査、スーパービジョンに関する調査(質問紙による実態調査、インタビュー調査)、対人関係想記法による実際のスーパービジョン面接の分析、大学院修了後の教育訓練・研修に関するニーズ調査の作成をこれまでに行っている。したがって、研究の大部分については順調に進んでいるといえる。一方、成長促進的な訓練・研修モデルの実験については、繰り返し募集を行ったにもかかわらず、実施に必要な研究協力者(参加者)を得ることができず、実施が困難であった。

4. 今後の研究の推進方策

これまで得られたデータの分析、海外との比較、大学院での臨床的教育訓練・研修ならびにスーパービジョンにおける成長促進的なプロセスと非促進的なプロセスの抽出、さらには、大学院修了後の教育訓練・研修に関するニーズ調査の結果を分析・統合し、それらを基にして、大学院在学中の大学院生、ならびに、修了後数年間の臨床心理士にとって有益となる成長促進的な訓練・研修モデルの作成・提言を行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 下山晴彦 2010 医療領域における臨床心理研修プログラムの研修マニュアル 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 47-55 (査読無)
- ② 下山晴彦・平林恵美(8名1番目) 2009 特集: 医療領域における臨床心理研修プログラムの開発研究 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 32, 115-124 (査読無)

[学会発表] (計4件)

- ① 金沢吉展・岩壁茂・山口慶子・横田悠季・下山晴彦 自主シンポジウム: 心理臨床家のストレスと癒しを考える 日本心理臨床学会第29回大会 2010年9月 東北大学
- ② 山口慶子・佐合累・岩壁茂・金沢吉展 心理臨床家の職業的発達に関する調査から: - (9) 大学院の困難体験に関する質的分析 - 日本心理臨床学会第28回秋季大会 2009年9月20日 東京国際フォー

ラム

- ③ 佐合累・山口慶子・岩壁茂・金沢吉展 心理臨床家の職業的発達に関する調査から: - (8) 大学院における学習体験 - 日本心理臨床学会第28回秋季大会 2009年9月20日 東京国際フォーラム
- ④ 新保幸洋・金沢吉展・岩壁茂 心理面接の基礎的なスキルに関するトレーニング法の効果測定研究 - プログラム開発の原理と評価の実践 - 日本心理臨床学会第27回大会 2008年9月5日 つくば国際会議場

[図書] (計3件)

- ① 下山晴彦 (著) 東京大学出版会 「臨床心理学をまなぶ1: これからの臨床心理学」 2010年 300頁
- ② 村瀬嘉代子 (編) 新保幸洋他著 金剛出版 「統合的心理援助への道: 真の統合のための6つの対話」 2010年 (分担執筆: 173-219頁)
- ③ 下山晴彦・能智正博 (編) 新曜社 「心理学の実践的研究法を学ぶ」 2008年 351頁

[産業財産権]

該当無し

[その他]

該当無し